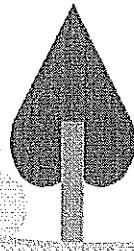
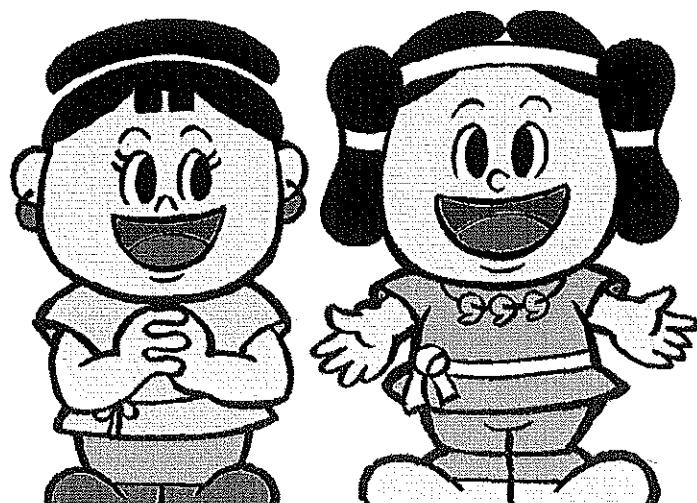


市民懇話会

第8期・第9期会員活動報告書

～届けよう！市民の声～



平成25年7月
かすが市民懇話会

かすが市民懇話会 平成24年度（第8・9期）を振り返って

かすが市民懇話会の平成24年度（第8・9期目）が終わりました。7期会員として参加してからの2年間は副会長を、そして今期は会長を務めさせていただきました。ご参加の諸先輩がいらっしゃる中、力不足の感は否めませんでしたが、市長をはじめ行政側とこの会の橋渡し役となれば、という思いでお引き受けしましたが、はたして、振り返るとまだまだだったという思いでいっぱいです。

「春日市を良くしたい」という思いは、皆一緒です。では、どのように良くしたいのか。何を良くしたいのか。参加者は、そして市民の皆さんには、住んでいる地域も、年齢や立場も、困っていることも、求めていることも様々です。そして、春日市は現状でも、とても住みやすい、素晴らしい市だと思います。悪いところを改めるよりも、いいものをより良くしていくことの方が、より一層困難です。さらに、市議会ではないのですから、市政そのものを論じる場でもありません。そのため、今期は、抽象的に市全体のことを論じるということを避け、毎回のテーマを、身近な共通のことにつなぎて会の運営を図り、多様な参加者の発言が、市政改善の一助になるように努めました。

「情報満載の市報を、もっと読んでもらうためには?」、「ゴミ減量のために、それぞれができるることは?」、「多くの市民が利用する自転車が、車や歩行者とも安全に共存できるためには?」、「新しく生まれ変わったあんどん祭りを、春日市民の祭りとするためのアイデアはないか?」をテーマに懇話し、春日市の文化の中心である、ふれあい文化センターを、もっと深く知るためのバックヤードツアーも行いました。ここで出た意見やアイデアが、何か一つでも、「あ、それは行政では考え付かなかつたね。」というものであれば、本当に有り難いことだと思います。

ただ、もっともっとご自分の思いを訴えたかった会員もいらっしゃったでしょう。年に6回の開催であり、結論を求めない、会員それぞれの意見に耳を傾けるという会の性質上、一人一人のご意見に深く聞き入ることはできませんでした。次回テーマの効果的なアナウンス、効率的な会議の進め方等、課題も感じました。

しかしながら、縛りの少ない会であるからこそその自由な発言の良さを大事にしつつ、懇話会ならではのスタンスの共通認識を図りながら進めていくことで、より実りのある会になっていくことだと思います。

最後に懇話会の円滑な運営にご尽力いただきました行政管理課、そして何より公務多忙な中ご出席頂き、私たちの声をしっかりと受け止めてくださった井上澄和市長へ感謝するとともに、この春日市民懇話会のますますの発展を祈念しております。

平成24年度（第8・9期）会長 久富 典子

かすが市民懇話会活動報告書 もくじ

1	かすが市民懇話会の概要	1
2	各回懇話会の会議録	3
3	懇話会の模様	24
4	第8期会員からのメッセージ	27

【資料】

- ・ かすが市民懇話会会員名簿

かすが市民懇話会の概要

1 設置目的

かすが市民懇話会要綱第1条により、設置目的は次のとおりです。

行政への市民参画の機会の拡大を図り、市民の率直な意見を行政施策に生かし、市民と行政との協働による市政運営を一層推進していく必要があるため、かすが市民懇話会を設置する。

2 基本的な活動内容

私たちは、かすが市民懇話会を「春日市に住む一人ひとりがそれぞれの住みよさを見つけることができ、誰もが住みよいと感じるまちを目指すために、私たち市民の声を市に直接届ける場にしたい」という思いから、生活に身近な話題で、年齢や性別や経験に関係がなく、誰でも意見が言いやすいテーマを設定し、かすが市民懇話会要綱第2条により次の活動を行いました。

- ・市の重要課題や施策に関する意見交換及び提言
- ・市政の運営に関する調査及び研究
- ・その他懇話会の設置目的を達成するために必要な活動

また、同要綱に、私たちの提案に対する市の対応は次のとおり規定されており、懇話会の活動に際しての庶務は、行政管理課が行うこととされています。

市長は、前項の活動によって提案された事項については、市政の運営に生かしていくよう努めるものとする。

3 平成24年度のかすが市民懇話会の活動

年間テーマ 「届けよう！市民の声」

活動内容・各回テーマ

開催月	テーマ	内容	市からの情報提供
10月	市のPR戦術	春日市の広報について、市報のみならず、いろいろな広報についての思いやアイデアを、直接、広報担当者に届けました。	春日市の広報の現状について (情報政策課職員)
12月	春日奴国あんどん祭り	春日奴国あんどん祭りを各自で見学後、市民の祭りとしてもっと盛り上げるためのアイデアを出し合い、春日市民祭り振興会の方に提案しました。	春日奴国あんどん祭りについて (春日市民祭り振興会)
2月	身近な安全 (自転車マナー)	春日市の身近な安全について、自転車のマナー対策を中心にアイデアを出し合い、直接、交通安全担当者に届けました。	自転車マナーについて (道路防災課職員)
3月	ふれあい文化センター パックヤードツアー	普段は見ることのできない、ふれあい文化センターのパックヤードを見学し、文化施設のあり方にについて学びました。	春日市の文化振興について (文化振興課職員)
5月	ごみ減量大作戦 (家庭でできること)	日常生活で身近な問題であるごみ問題について考え、ごみの減量化の取り組みについてごみ減量化推進担当者に提案しました。	春日市のごみの現状について (ごみ減量推進課職員)

時間：午後7時から午後9時

- ・ 午後7時00分～午後7時10分 開会、会長挨拶、市長挨拶（10分）
- ・ 午後7時10分～午後7時30分 講話、質疑応答（20分）

※講話がない場合は、講話時間を懇話時間に繰入

- ・ 午後7時30分～午後8時30分 グループ懇話（60分）
- ・ 午後8時30分～午後8時45分 懇話内容発表（15分）
- ・ 午後8時45分～午後9時00分 講師及び市長所感、閉会（15分）

かすが市民懇話会の會議録

(第49回～第54回)

第49回かすが市民懇話会会議録

1 開催日 平成24年7月23日(月)

2 時間 午後7:00~午後9:00

3 会場 春日市役所 大会議室

4 出席者

かすが市民懇話会会員28名〔欠席(2名)〕

第8期会員(一般公募)今村 太陽、緒方 寛、神代 俊史、小山 雄二、篠原 貴美恵
東 強志、前園 敦子、松原 至、吉田 紀美

第9期会員(一般公募)紙屋 彰枝、木村 豊、中村 真一郎、久富 典子、廣畑 一代
福元 千鶴、前田 浩右、松尾 一昭、松尾 謙治、吉岡 公子

第9期会員(団体推薦)坂本 雅美、古賀 ひとみ、北村 哲、野村 喜秋、松尾 容子
今里 勇、諸岡 泰三、大久保 聰、池田 邉八

春日市長、副市長

事務局(総務部長、行政管理課長、行政管理課課長補佐、企画担当職員4名)

5 会の内容

(1) 開会

(2) かすが市民懇話会第9期会員依頼書交付(副市長が市長の代理で交付)

(3) 会員自己紹介

(4) 市長あいさつ

(5) 「かすが市民懇話会」概要説明

説明 高田行政管理課長補佐

体験談 平成23年度会長 伊藤信輔氏

(6) 「かすが市民懇話会」役員互選

かすが市民懇話会要綱第4条の規定に基づき、会長及び副会長の互選。伊藤信輔氏(平成23年度かすが市民懇話会会长)が議長を務める。平成22年度・23年度に副会長経験がある第9期久富典子氏が他薦により会長として了承される。

副会長3名は、第9期から男性1名、第8期から男女2名を話し合いにより以下の3名が選出される。

会長：久富 典子(第9期市民公募会員)

副会長：今村 太陽(第8期市民公募会員)

吉田 紀美(第8期市民公募会員)

前田 浩右(第9期団体推薦会員)

(7) 活動方針協議

① 平成24年度年間テーマ、懇話会の回数、各回のテーマ、班編成員、行政からの講話・施設見学等について、会員からのアンケートを参考に、役員会に一任することとなる。

(8) 市長所感

(9) 閉会

第50回かすが市民懇話会会議録

1 開催日 平成24年10月1日（月）

2 時間 午後7時から午後9時

3 会場 春日市役所 大会議室

4 出席者 かすが市民懇話会会員23名〔欠席（7名）〕

春日市長、行政管理課長、行政管理課長補佐、事務局（企画担当）

情報政策課（情報公開広報担当）統括係長

5 会の内容

(1) 会長あいさつ

(2) 市長あいさつ

(3) 平成24年度活動方針報告（久富会長）

活動方針については、前回の懇話会で役員会に一任されたため、後日、役員会を開催し協議した。協議の結果、年間テーマを「届けよう！市民の声」に決定。活動方針を決めるに当たり会員に対して実施したアンケートでは、懇話会で出た意見を市政に反映させて欲しいという思いが共通していた。そこで、私たちの声を直接、市に届けていきたいという思いを年間テーマに反映させている。

各回の懇話テーマについても、様々なご提案をいただいていたが、かすが市民懇話会で懇話したことを探らかの形で市政に反映させることを重視し、市にとって響きやすいテーマ、市民の声が市政により活かしやすいテーマに絞ったので、ご理解いただきたい。

(4) 市からの情報提供

「春日の広報の現状について」：情報政策課 小林統括係長

皆さん、こんばんは。情報政策課統括係長の小林と申します。情報公開広報担当でどのような広報をしているのか、市報を中心にお話をさせていただきます。

市報かすがは月2回発行しています。本日、お手元に9月1日号を参考としてお配りしています。

まず、表紙は、話題性、ニュース性が高い行事等を撮影し、掲載しています。

次に、表紙をめくって最初の数ページは、大記事と言って、市民に啓発・お知らせしたいこと、重要なことを掲載しています。9月1日号を例にあげますと、9月29日に奴国の丘フェスタを控えていたため、奴国をPRする特集を組みたいという文化財課からの要望を受けて、「住みよさ発見 古代から住みやすかった春日」という見開き2ページの大記事を掲載し、春日の歴史と奴国の丘歴史資料館、奴国の丘フェスタ、考古企画展の告知を一緒に載せました。二つ目の大記事が、「地震に備える 9月1日は『防災の日』です」と題した3ページの特集です。市役所の仕事で一番大事なことは、市民の生命や財産を守るということですので、防災については力を入れて記事を作成しています。文章だけでは読みたくない方もいるので、「日頃からの備え」では、イラストを使ったり、非常用品のチェックリストを掲載し、見やすいように工夫をしました。避難

場所の地図と電話番号も掲載しています。

大記事の次が、「市からのお知らせ」です。ここには、大記事に続いて、市民に知りたい内容を掲載しています。

14ページ目には、「市民図書館から」と題して、市民図書館からのお知らせを掲載しています。以前は図書館も別に広報紙を出していましたが、予算の関係で年に2回しか発行できなくなりましたので、市報に月1回、図書館からのお知らせコーナーを設けています。

続いての「トピックス」は、人物紹介や春日市で開催された行事やイベントの紹介をし、市民の方に地元のことを知りたいという趣旨です。

「情報ひろば」では、市、県、国、民間、市民団体等から掲載依頼があった募集記事の中から、市民の方が知りたい情報や必要な情報を優先順位をつけて掲載しています。

そして、「あそば～児童センター」として児童センターからのお知らせを掲載し、毎月1日号では「各種相談窓口」の一覧を掲載して問合せにお答えやすくしています。

市の人口、そして「お誕生日おめでとう」のコーナーで誕生月を迎える3歳までの赤ちゃんの写真を掲載しています。これは、子どもが増えていくことで、市の活力につながり、元気な春日市をアピールすると共に市民に親しみのある紙面とする目的があります。

最終ページに広告を掲載し、自主財源の確保に努めています。最後に掲載している「さんぽみち」は、編集後記として市報担当者が当番で書いているものです。

続きまして、市のホームページについてご説明します。ホームページの新着情報は、市報に掲載された情報になります。また、ホームページにおきましても、広告収入を得るために、広告バナーを載せています。市について知りたい、調べたいという方のために「暮らしの便利帳」というコーナーがあります。これは主に毎年、転入者向けに発行している「市民べんり帳」をまとめた内容を掲載しています。ホームページを見ると春日市のことがわかるように、市報や市民べんり帳の内容等、ほぼ全ての情報を盛り込んでいます。

春日市の広報として、市報、WEB、市民べんり帳をご紹介しましたが、この他にパブリシティがあります。パブリシティとは、新聞記事などを通じて情報発信を行うことです。春日市では、市から広く情報を発信したい事項がある場合、一度その情報を情報公開広報担当に集め、新聞各社やテレビ局等に取材依頼のFAXを送信するようにしています。

情報公開広報担当には職員が4人います。庶務兼市報作成担当の職員と係長の私の二人が市報を作成していますので、市報は実質1.5人で作成しています。他には、ホームページの担当者が1人、情報公開の担当者が1人います。

市報の作成には市民の視点が必要なため、本市には、広報レポーター制度があります。各小学校区1名ずつ計12人の広報レポーターを配置し、各地区の情報をこまめに拾ってもらい、取材・記事作成をしてもらったり、市報のわかりやすい点・わかりにくい点について意見をいただく制度です。広報レポーターのなり手が少なく、半分の6人が現在、広報レポーターとして活動しています。「トピックス」の欄に「レポーターニュース」として、毎月1、2人に記事を書いて頂いている状況です。

市報を作成する上で気をつけているのは、春日市民全員に読んでいただくため、誰でも読みやすい、わかりやすい市報とすることです。常用漢字のみを使用し、新聞社の表記にのっとっています。難しい漢字にはよみがなをふり、個人名にはルビをふっています。カタナカ用語は日本語

に書き換えるように原稿を作成した担当課とやり取りをしていますし、できるだけ読みやすい市報づくりを目指しています。

また、「あじさいの会」という市民グループが、市報の文章の朗読だけではなく、表紙の写真もBGMや朗読で表現し、視覚障がい者にカセットテープで提供するという活動をしています。

以上で、春日市の広報の現状についての説明を終わります。

(5) 各班からグループ懇話で出た意見、感想の発表

① 1班 班員：今里 勇、東 強志、廣畑 一代、紙屋 彰枝（発表者）、前田浩右

春日市が民放テレビ局に取材され放送されるようになればよいのではないか、やよいバスに中吊りで市からのお知らせを掲載できないか、市報の大記事の見出しの文字を大きく色を変える等の工夫はできないか等のアイデアや、地震災害などの市民生活に関わる大事な記事については、市民が日頃使う言葉を用いて具体例を挙げて市民目線の記事にして欲しい、スポーツ大会の結果を定期的に掲載して欲しい、税金の収支決算を複式簿記で見やすく知らせて欲しい等の意見が出ていた。

② 2班 班員：小山 雄二（発表）、前園 敦子、今村 太陽、松原 至、久富 典子

「市からのお知らせ」などの重要な情報は、紙の色を変える、文字を大きくする等の工夫が必要。若い人は市報を読まないので、若い人が見てわかるように4コママンガを入れる等工夫したらよいのではないか。

市職員が認識している以上に市民は市報を読んでいない。何故、市民が市報を読まないか？本当にどれくらいの人が読んでいるのかをリサーチしてみるべき。

対象者の年代別に記事を掲載し、対象ごとに記事のタイトルの上にアイコンをつける（例；赤ちゃん向け＝哺乳びん）等の工夫をしてはどうか。

今は、ネット社会なので、ネットをもっと使って情報提供に努めてはどうか。流行のゆるキャラを春日市でも作って、春日のイメージを打ち出すものを置き、そこから情報を発信し、春日を注目させることはできないか。なんとか春日をしないといけない、もっと外に打って出よう！という意見で盛り上がった。

③ 3班 班員：池田 外八、諸岡 泰三、古賀ひとみ（発表者）、松尾 一昭

イベント情報は、インパクトがある変化が欲しい。字体を太くする等、弱視にも見やすくしてほしい。若い人にも読みやすい市報にしてほしい。グループ懇話で出た意見だが、家族内で一つずつ読むようにし、市報にチェック欄を設けるとどうか。春日市の様々な場所の写真を市報の表紙に掲載してはどうか、市民が読んで得したなと思う市報づくりをして欲しいという意見が出た。

④ 4班 班員：野村 喜秋（発表者）、大久保聰、松尾 容子、松尾 謙治、坂本 雅美

見出しの文字を見やすくし、市民に見て欲しい記事の見出しあは大きくする等、工夫してほしい。掲載する情報を子ども対象やスポーツ、健康などジャンル分けをして、読みたいものをすぐに見れるように見やすくしてほしい。市報に使っている言葉は、行政に関心が薄い人

にはわかりにくいものも多いので、市報を読むためのガイドブックを作つて、ガイドブックを補助的に見ることで、市報の内容がわかるようになるのではないか。

市民カレンダーを毎月の1枚ものにせず、年間カレンダーを作つて1年間の行事があらかじめわかれれば、各家庭の予定と調整して参加しやすい。表紙の写真を分割して掲載し、もっと市民の活動の写真を掲載して欲しい。市報以外で双方向のやり取りができるようにフェイスブック、ツイッターなど情報機器を利用できないか、ホームページも見る年代に向けた作り方をして欲しい、市議会をインターネット中継して、市議会の情報がリアルタイムにわかるようにしてはどうか等の意見が出た。

⑤ 5班 班員：吉田 紀美（発表者）、木村 豊、福元 千鶴、神代 憲曉

体裁よりも実用的にというのが私たちの班のモットー。情報メールやフェイスブックの活用、新聞社やテレビ局等の報道機関へ情報流すルートの確立、市報の紙面に代わり映えがないので、ボランティアを活用し、編集会議を開くようにしてみてはどうか、市民カレンダーは便利なのでもっと活用しようという意見が出ました。市報を作るのは大変そうだということがわかった。担当者の方は、今後もよろしくお願ひします。

(6) 担当者感想

実際、市報作りをこのようにしたいと思っていたことと同じ意見が皆さんから多く出ていました。

来年度、市報の印刷業者が変わるために、市報紙面のリニューアルを考えています。今回いただいた提言を一つでも多く実現できるように取り入れていけたらと思っています。

(7) 市長所感

本当に疲れさまでございました。さきほどから各グループのお話を聞かせていただきたり、掲示された「市報への提言」を拝見させていただき、誠に的確に課題を捉えていただいているなど感じました。

結論から申し上げますと、非常に難しい問題です。市民の皆さんのが一番重要だと思っている情報、関心をもっていただいている情報は、それぞれ違います。ここにいる皆様においても、全員が同じ情報が一番大事とはなりません。それぞれ関心がある情報は違つてまいります。現在の市報を3、4倍にページ数を増やして、色刷りで見やすくして、全ての情報を掲載すれば内容は充実します。予算も嵩みますが、そのようにページ数を増やして、どれだけの方に読んでいただけるようになるのでしょうか。市報を読まない無関心な方のニーズ把握のためにアンケートをとりたいと思っても、関心のある方からしかアンケートは返ってきません。生活に密着した情報は見ているかと思っても、例えば、コミュニティバスの時刻表は全世帯に配布していますが、コミュニティバスの発着時刻の問合せの電話は市役所にかかります。そして、これらは全て税金で賄われています。それでも関心を持っていただけないというのは、ご自分が払われた税金を利用されていないということです。

私の恩師に、文字を全く見ない日を設けるという方がいます。そうすると文字を渴望するからだそうです。現代社会は、情報過多の時代です。自分にとって何が必要な情報か、あれ

もあつたらいいな、これもあつたら便利だなではなく、自分で取捨選択していくことが必要になっています。行政も何を大事なものとして抽出していくのか、そういう意味で、広報は永遠の課題だと、さきほどの挨拶で述べさせていただきました。

以前も市報については、市民懇話会で取り上げていただき、当時も色々なご意見が出ましたが、「では、どこに集約しますか?」というと結論が出なかったということがありました。

本日いただきましたご意見は、後ほど、一つ一つ考えさせていただきます。どうすれば市民の皆さんに関心を持っていただけるのか、興味関心の対象は人によってまちまちなのでどこに集約していくのか、若い人がどれくらい見ているのか、高齢者がどれくらい見ているのか、市報がどれくらい読んでいる方のお役にたたせていただいているのか、と考えると難しい問題だと思います。

逆に市報をシンプルなものにスリム化して、もっとその情報について知りたいという市民の方から問合せをしていただくようにしたほうがよいのかなとも思います。あつたらいいなという情報を盛り込んでいくよりも、「もっと知りたい」と自分からアクションを起したくなるように関心をもたせるような工夫をして、あとは本人が自分で問い合わせていくようにしていくことも必要かなと思います。

広報は永遠の課題です。どうやっていくのか、今後も考えていきたいと思います。本日は、貴重なご意見をありがとうございました。

第51回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成24年12月5日(水)
- 2 時間 午後7:00~午後9:00
- 3 会場 春日市役所 大会議室
- 4 出席者 かすが市民懇話会会員15名 [欠席(15名)]
春日市長、行政管理課課長補佐、事務局(企画担当)、
地域づくり課(商工農政担当) 鈴木主事
春日市民祭り振興会 山口企画室長

5 会の内容

(1) 会長あいさつ

みなさんこんばんは。寒い中お集まりいただきありがとうございます。今回の懇話会のテーマは「春日奴国あんどん祭りについて」です。春日市を代表するこのお祭りは、昨年も懇話会のテーマとなっておりました。実際に春日奴国あんどん祭りに参加された方は、来て感じたことを、忙しくて来られなかつた方は、どのように感じているのかをお話しいただければ、と思います。

それでは、第51回かすが市民懇話会を始めさせていただきます。よろしくお願いします。

(2) 市長あいさつ

みなさんこんばんは。今回もかすが市民懇話会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。いよいよ師走に入りました、何とも慌しさがあるように感じます。日が暮れるのも早くなりました。12月3日から9日までは「障害者週間」になっており、障がいのある方の社会参加への意欲を高めることを目的に、全国で様々な取組みが実施されています。本市には、障がい者の拠点として昇町に福祉ぱれっと館があります。ここではパンづくりを始めとして様々な就労支援を行っております。このパンは、毎週木曜日に一時間だけではあります、市のロビーでも販売しておりますし、福祉ぱれっと館内、「喫茶オルゴール」でも毎日販売されています。コーヒーもとてもおいしいので、是非一度足を運んでいただきたいと思います。また、障害者週間にちなんで、市役所1階市民ホールにて「障がい者のアート展」を行っています。ちぎり絵など数点展示されておりますが、どれも素晴らしい作品ばかりで、私自身びっくりしました。是非、お帰りの際に皆さんにも見ていただきたいと思います。

さて、本日の懇話会は、先ほど会長が説明されましたように、「春日奴国あんどん祭り」のテーマで懇話ををしていただきます。この祭りは、市民や多くの市民団体で構成する「春日市民祭り振興会」が主催者になっています。本日は、祭り振興会から山口局長にご出席いただいております。懇話の中にも加わって、詳しいお話をお聞かせしていただければ、と思います。

このお祭りは、皆さんもご存知のように、来場される方々の安全上の問題等から、昨年から花火を中止し、あんどんを市民の方に見ていただき、芸術的な作品や、幻想的な光景を見ることで先人の暮らしを偲ぶ祭りにリニューアルされました。当日はこの会議室にあるような芸術的なものばかりではなく、皆さんのが気軽に作成し、参加できるような簡単なあんどんも多数設置しております。このように、誰もが参加できるような試みをされています。

去年は残念なことに、雨で点灯式ができませんでしたが、今年は初日こそ雨に見舞われながらも何とか点灯式で点灯することができました。二日目にはすっかり雨も上がり、美しいアート作品を見ることができ、非常に感動しました。懇話会の皆さんにも、これをきっかけにして春日奴国あんどん祭りにご理解とご参加をしていただければと思います。聞くところによると、2日間で4万人以上の方に足を運んでもらったようです。市外からも参加者が来ていたようです。

本日は、来年度以降の祭りが、どのようにしたら、さらに地域に根ざした、市民の皆さまの心に素晴らしい思い出を刻む市民祭りになるかを懇話していただくことになっています。市民の視点からの市民祭りに対する思いや貴重なアイディアなどが出てくるのではないか、と期待しております。では、限られた時間ではございますが、どうぞよろしくお願ひします。

(3) 春日奴国あんどん祭りの模様

- ・ビデオの放映
- ・写真のスライドショー

(4) グループ懇話

テーマ『春日奴国あんどん祭り～祭りの感想、もっと魅力ある祭りにするための提案など～』

① 1班（班員：紙屋 彰枝〔司会〕、久富 典子〔発表・記録〕、廣畑 一代、松尾 一昭
池田 郎八）

1班は、全員が春日奴国あんどん祭りに参加しました。見た場所や時間帯は異なりますが、フリートーキング形式で様々な意見や感想がありました。

その一部を紹介しますと、①YOSAKOIの迫力に驚かされた、②実行委員会で参加したが、あんどんの鑑賞へ人が流れていただろうか、③点灯式は非常に寒く、また、どんどん日が落ちて暗かった、④商工会の方の奮闘が素晴らしかった、⑤舞台が素晴らしかった、などの感想がありました。

祭りの全体的な印象として、テーマである「静」と「動」の動的な部分には賑わいがありましたが、静的な部分は、とてもきれいではあったけれども、動的な部分と比較すると人をひきつけてはいなかったように感じました。

祭りのコンセプトの1つは「市民総参加」ですが、そのコンセプト自体が全市民に浸透していないのが現状だと感じます。もちろんすぐに出来るものではありませんし、昨年の懇話会で山口室長が5年後の形を目指して取り組んでいるとおっしゃられていきましたが、1年1年の目標すべき祭り像はどのようなもので、どんなところを延ばして周知していくべきかという話になりました。

具体的な提案としましては、子どもを核として様々な手法で参加・参画させていくと、子ども1人に対して大人が5～6人の参加が見込めるので、未来に繋げて少しずつ発展させるという意味では、良いのではないかという話になりました。また、PTAやこども会育成会、自治会の力を活用するのも良いのではないかという意見がありました。

他の提案として、あんどん祭りのあんどんの写真コンテストを開催し展示すれば、「あんどん祭りのあんどんは、きれいだね。行ってみようかな。」ということになり、翌年の参加に繋が

るのではないかという意見がありました。

次に、交通環境について、祭りのメイン会場は市の東端であるので、バスの臨時便を運行するだとか、市民が参加しやすいような工夫が必要ではないかという意見もありました。

最後に、静と動の相反するコラボレーションは難しい面があると思いますが、どのような雰囲気を作り出し、どこに人を呼び込みたいのか明確にしてはどうかという点と、先ほども申しましたように祭りの広がりは一朝一夕で広がるものではないけれども、来年はこの取組をするとか、1つ1つの具体的なステップアップを図り、5年後、10年後に繋げる計画を立てていただければというまとめになりました。

② 2班（班員：今村 太陽〔司会〕、松尾 謙治〔発表〕、緒方 寛〔記録〕、福元 千鶴、小山 雄二）

2班は、よりよい春日奴国あんどん祭りにしていきたいという気持ちで、今後どうしたら良いのかという視点で懇話会をしました。

まず、祭りのコンセプトが市民に浸透していない、理解している人が少ないという意見がありました。ですから、11万人の市民に広がって欲しいという意見がありました。

一方で、市長のあいさつの中に来場者が4万人とありましたが、参加者の数がすごい、これほどまで多いとは思わなかったという意見がありました。

この参加者をもっともっと増やしていくという提案として、太宰府市や大野城市などの市外の祭りや、市内の様々なイベントを1つにまとめて、大きな祭りにすると、盛り上がるのではないかという意見がありました。また、PRも不足している様に感じるので、もう少し力を入れてはどうかという意見もありました。

あんどん祭りの主役は、暗闇とそこに灯るあんどんで作られる幽玄の世界であると思います。展示会場には、一般市民の部、障がいのある方の部、一部の小中学校の部などの看板が表示していましたが、全小中学校ではなかったので、展示のない学校も参加すればいいのにと思いました。山口室長に伺ったところ、働きかけはしているけれども、全校の参加までは広がっておらず、数校の持ち回りでの参加ということです。

今後の展開として、私たちは、この祭りを通して、ふるさと春日に誇りを持てるようなものにしていきたいと感じました。そのためにも、広報車を使うなどして広報活動に力を入れるべきだ、また、全学校に趣旨を浸透させるべきだ、他に、自治会や老人クラブなどにも働きかけてはどうかというのが、私たちの意見です。

③ 3班（班員：東 強志〔発表〕、松原 至、吉田 紀美、木村 豊、古賀 ひとみ）

3班は、フリートーキングを行い、良かったところ、思ったこと、提案などの意見がありました。

《良かったこと》

- ・あんどんを通じて古人の思いにふけることができた。
- ・夜見るとあんどんがとても美しかった。白いバルーンは最高の演出だった。
- ・あんどんは、春日市のイメージにふさわしい。
- ・子どもたちの作品は、実に見応えがあった。

《設営に関して》

- ・休憩する椅子がたくさんあり、若い人から高齢者まで利用できた。
- ・出店が28店あり、とてもよかったです。
- ・市民が手作りで、身近に感じた。

《思ったこと》

- ・高齢者が少なかったように感じた。
- ・市全体が盛り上がる祭りにしてほしい。
- ・暖かい時期にしてはどうでしょうか。
- ・抽選券は楽しいことなので続けてほしい。でも、来た人に配ってはどうでしょうか。
- ・飲み物関係が少なかったと思います。
- ・駐車場が少なかった。

《提案事項》

- ・YOSAKOI祭りと商工展祭りとの同時開催でしたが、それぞれの会場の回遊性をどう考えているのか。例えば、YOSAKOIは現代の祭りであるから、現代から弥生の時代にタイムスリップしていく物語を演出し、看板を設置してはどうか。
- ・あんどの表彰者の名前が夜は見えにくかったので、改善してはどうか。
- ・市民が何か一言、ステージで言ってもらうコーナーを作ってはどうか。
- ・鹿児島本線沿いに横断幕で広報してはどうか。特に市役所の敷地が活用できるので。
- ・入賞作品やアートあんどんは、大テントを張って暗くすれば、昼でも見れるし、雨天の対策にもなる。

3班の総括としましては、他の班からも意見がありましたが、市民全体に広がっているのだろうか、小中学校への広がりを広めてはどうだろうか、ふるさとを感じれるような祭りにしてはどうだろうか、という意見がありました。

市民総参加への取組として、1つ目の提案として、全家庭であんどんを作り自治会単位でエントリーしてはどうでしょうか。例えば、私の自治会は9丁目までありますが、丁毎にコンテストをすれば、9個のあんどんが出展され、35自治会となればかなりの数になります。

2つ目の提案として、小中学校、幼稚園単位でエントリーして、学校別のコンテストをしてはどうか。まだまだ、参加する学校も少ないようですので、輪を広げていくとも必要だと思います。

3つ目に企業団体単位でエントリーです。市民の方々は、様々な団体に所属しておられますので、多方面でエントリーを増やすことで、参画の輪が広がれば、自分の組織のあんどんは、どうなっているか気になり、祭りに関心を持つてもらえるのではないかでしょうか。

昨年、山口室長から、ペットボトル1つでもあんどんができる教えていただきましたが、様々なエントリーの手段を増やす上でも、その準備が必要ありますので、出展の2ヶ月前くらいから、あんどんの講習会を開催しては、あんどんの作成が身近にできる環境づくりを進めてはどうかと思います。

また、単に、あんどんを作成させるのではなく、奴国をテーマにすることも良いのではな

いでしょうか。

博多祇園山笠もそうですが、祭りは歴史的な経過を重ねながら、根付いています。子どもの頃から、おらが（私の）まち・おらが（私たちの）祭りだという誇りが受け継がれた結果、その時期になると血が騒ぐものだと思います。

あんどん祭りも市制5周年から始まり、昨年度から形を変えましたが、市民総参加ということを更に加味していくことが、大きな輪になっていくものと思います。

(5) 山口企画室長（春日市民祭り振興会）所感

ご討議いただきありがとうございました。皆さんのふるさとへの思いや、まつりを市民に定着させようとする気持ちが伝わり、とても嬉しく感じています。

今年のあんどん祭りの参加者数は4万5千人でした。花火大会をしていた頃の参加者数は7万人でしたが、そのうち市民の方は4万人もいなかつたと思います。しかし、今年は参加者のうち約4万人は市民の方だと思います。多くの市民の方に参加していただき、嬉しく感じています。

祭りの後、電話や手紙で感動したとのメッセージが多数届きました。YOSAKOIは531名の踊り子に加え、引率の方も含めると600人以上の方にお集まりいただいたようです。商店の出店も、ほぼ完売だったと聞いております。市民芸能ステージに参加したいという人や団体も多かったです。以上を踏まえ、今年は大成功だった、と考えています。

一方で課題も十分認識しており、後日反省会を行う予定です。今回の懇話会でも貴重な声をお聞きすることができましたので、努力していきたいと思います。

来年以降は、春日市独自の勾玉や甕棺をモチーフとしたあんどんの製作を検討しています。また、開催時期も1週間早めて行いたいと思います。そして、今日の意見にもありました、あんどん設置会場とYOSAKOIステージ間の導線上を工夫したいと考えております。他にも、要望があったのでカスケード広場でコーヒーが出せるようにしたいと思います。

皆さんのご意見を参考にし、YOSAKOIの「動」とあんどんの「静」のメリハリを活かしていきたいと思います。あんどん祭りは市民総参加です。今後も、是非「春日奴国あんどん祭り」に参加してください。

(6) 市長所感

今日は熱心に懇話していただき、ありがとうございました。皆さん「春日奴国あんどん祭り」をもっと市民参加型の祭りにしていきたい、という強い気持ちがうかがえまして、大変嬉しく思っております。

皆さんの意見の中で、1班から出ていた「写真コンテスト」はなるほど、と感心させられました。交通網の整備については、祭りの開催時間が長いため、もう少し考えさせていただきたいと思います。

2班からもあんどんの幽玄さを大切にしよう、とご意見をいただきました。周辺市町との一体化についてもお話をいただきましたが、難しいところもあるかと思います。祭りに参加する学校が特定化されているのは、我々から働きかけをせずとも、学校側が動くと思います。

3班からは企業の協力も行う、と出ておりましたが、これについては是非、振興会の方に

もお願いをしたいと思います。また、高齢者の参加が少ないとのことでしたが、時間帯にもよるかと感じています。回遊性の件については、私自身も同じように感じていました。

花火をしていた頃は、市外から人が押し寄せ、8万人もの参加がありましたが、様々な理由から市民のための祭りにしようと内容を変化しました。今年は市民11万人のうち4万人の参加だったようで、実に4割近くの方が参加するのは凄いと思っております。今後も多くの方に参加していただきたいですが、ただ見るだけではなく、あんどんを出展して一緒に祭りを作り上げていただきたいと考えています。

今回の懇話を通じ、総じて宣伝不足が課題のようです。なかなか良い対策が思い浮かびませんが、口コミが一番良いのではないかと思っております。実際に行き、参加した人の声を聞くことで、自分も行こうかな、という気になれると思います。また、まずは「奴国」について知ってもらうことも必要かと思います。今年は春日奴国あんどん祭りの一ヶ月前に開催されました、「奴国の丘フェスタ」にもぜひ多くの方に参加していただきたいと思っております。今後は春日市出身の歌手、手島葵さんなど、春日市に関わりがある方にも参加して欲しいと考えております。

今日は皆さんから貴重な意見をいただきまして、心からお礼申しあげたいと思います。また、祭り振興会の方にも、是非、今日の声をお伝えさせていただきたいと思います。

最後に、大手不動産会社の出している、「住みやすい街ランキング」をご紹介します。今年10月のマンションデータベースで、春日市が九州・沖縄エリアで1位になっております。また、全国ランキングでも9位と、非常に高く評価されております。今回はこの中で紹介されている前園さんという方が、懇話会のメンバーだったこともあってご紹介させていただきました。このように、懇話会の活動は春日市に良い影響を与えております。本当に感謝しております。ありがとうございました。

第52回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成25年2月4日（月）
2 時間 午後7:00～午後9:00
3 会場 春日市役所 大会議室
4 出席者 かすが市民懇話会会員20名〔欠席（10名）〕
春日市長、行政管理課長、行政管理課課長補佐、事務局（企画担当）
道路防災課道路管理担当 猪口統括係長

5 会の内容

- (1) 会長あいさつ
(2) 市長あいさつ
(3) 話題提供「身近な安全（自転車マナー）について」

「自転車マナーについて」：道路防災課 猪口統括係長

国は、平成24年11月に「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」を示し、自転車利用ルールの徹底のためには、「自転車の利用ルールの周知を徹底させる」、「利用ルールに関する動機付けをする（講習会受講者に自転車免許証を交付する等）」、「交通違反に対する指導・取締り」の三つの視点から取り組むべきであるとしています。

平成24年中の春日市内の交通事故発生件数は946件（前年比+78件（内自転車216件 前年比+28件））です。福岡県警では自転車事故の増加に伴い、平成24年5月1日施行で「自転車運転での携帯、イヤホン禁止」を禁止事項に追加しています。

春日市の取組みとしては、小学校1年生を対象に横断歩道の渡り方等の安全教室を実施し、小学校4年生には自転車ルール等の安全教室を実施して受講者に自転車運転免許証を交付しています。中学生にも自転車事故等の安全教室を実施しているところです。

また、福岡県では年4回交通安全県民運動を実施しており、期間中は春日市内でも春日原駅前及びJR春日駅前、ショッピングセンター等で街頭啓発を実施し、スピーカー搭載車両による啓発活動を行っています。市が委嘱した交通安全指導員22名が毎月1日及び20日に市内各所の横断歩道で朝立硝を実施し、毎月8日を中心2日連続で自転車運転中の携帯電話使用及びイヤホン着用への指導を実施しています。今年は北中学校区内で自転車無灯火街頭啓発を2月22日に20時から4ヶ所で実施します。各場所に自治会4名、交通安全指導員3～4名、道路防災課職員1名が立って、無灯火の自転車の取締りを行います。全市民を対象とした啓発としては、平成24年12月15日号の市報に本日配布している「交通ルールを守りましょう」と書いたリーフレットを折り込んで全世帯に配布しています。リーフレットには、「自転車安全利用5則」を掲載して、注意喚起を呼びかけています。

自転車安全利用5則を見ていただけするとわかるように、自転車も軽車両として車道の左側通行が原則です。利用にはルールがあり、ルール違反者には罰金や懲役等の罰則の適用もあります。今、自動車運転免許証を持っていなくても、自転車で重大な過失により大きな事故を起した場合は赤キップが切られ、一定の期間、運転免許証を取得することができないというペナルティもあります。啓発のための様々な取組みをしているにもかかわらず、自転車利用ルールが浸透しておらず、自転車に関する事故が増加していることが課題です。皆さんに自転車事故を減らすための方法をご検討いただければと考えています。

(4) グループ懇話

テーマ『身近な安全（自転車マナー）』

① 1班（班員：前田 浩右〔司会〕、大久保 聰〔発表・記録〕、古賀ひとみ、吉岡 公子
北村 哲、久富 典子）

1班では、「啓発」、「装備」、「道路」という3つに意見をまとめました。

やはり、啓発についての意見が最も多くありました。啓発の対象として、高齢者にはふれあいサロンの場を活用する、自転車利用者だけではなく、歩行者にも啓発が必要だという意見が出ました。啓発方法については、自治会の活動を通じて周知したり、アメとムチで講習会受講者には記念品（自転車免許証）を渡す、国のガイドラインを強化する、自転車事故のビデオを特にお年寄りに見せて映像で伝える、条例化してルールを周知徹底させる等の意見が出ました。また、二人乗り、並行走行、子どもを乗せる運転など、禁止されている乗り方について周知するという意見もありました。

装備として、明るい服装の着用を呼び掛ける、反射板を無料で提供する、自転車のオートライトに補助金を交付する、シルバーカーにも反射板やライトを無料で提供してつけさせるという意見がありました。また、自治会や学校で半年に1回自転車の定期点検を実施する等の整備不良を点検するしくみづくりも必要だと思います。

道路整備は予算がかかることなので難しいとは思いますが、せめて通学路は自転車が安全に通行できるように道路整備して欲しいです。

② 2班（班員：小山 雄二〔司会〕、今村 太陽〔発表・記録〕、前園 敏子、紙屋 彰枝、
池田 夕八、松尾 一昭、神代 憲曉）

自転車は左側通行が基本であり、自転車利用マナーを徹底させることが重要です。

マナーを徹底させる方法として「安全5則」を公共施設など誰もが見えるところに示す、ケーブルテレビを利用する等して市民が見聞きする場を増やすことが大切だと思います。

マナー違反者を指導していくためにも、懇話会メンバーが「ついで隊」に登録して腕章を付けて活動することで抑止力となるのではないかという意見がありました。また、市では小学校4年生を対象に講習会を開催し自転車運転免許証を交付しているという話がありましたが、子どもは大人の真似をするので、まずは大人が変わることが必要です。大人の意識改革には、例えば入学式や卒業式にPTAを対象として安全5則を説明する、自治会総会等の場で説明する等、大人が考え直すきっかけとなる取組みが必要です。

悪質な自転車運転には赤キップが切られるということは、知らない市民も多いと思いますので、それを前面に出していくとよいと思います。

③ 3班（班員：松尾 容子〔司会〕、松尾 謙治〔発表・記録〕、篠原貴美恵、松原 至、
東 強志、廣畑 一代、吉田 紀美）

「気になる点と対策」について意見を出し合いましたのでご紹介します。

- ・道路が整備されていない。車道の自転車走行は自動車から見ると危ない。
- ・安全5則があるにも関わらず、法律が守られていない。
- ・夜間の事故、高齢者の事故、子どもの事故の場合、それぞれの要因分析が必要である。

- ・自動車、自転車、歩行者、三者の立場で考える。
- ・道幅が狭い道では、自転車で歩行者を後ろから追い越す時には声をかけてもらう。
- ・自転車も車両なので一方通行を逆走することができないが、そのことを知らない。
- ・自転車利用者に反射板を無償提供する。
- ・大人にも自転車の免許制度を導入する。
- ・雨の日無灯火対策として、講習会を大人対象にも実施する。
- ・ルールを守らない人にはイエローカードを出す。
- ・講習会を受けた印に、反射板に自転車運転免許証と刷り込んだものを交付する。
- ・無灯火、信号無視、右側通行は自転車の交通三悪
- ・条例をつくる

スローガンを次のように考えました。

(小スローガン)　自転車の違反をさせない、しない、こわさない(身体や自転車)

(大スローガン)　命を守るために自分のことは自分で守る

自転車事故を減らすには、「マナーの徹底」、「講習会への参加」、「条例の整備」が必要です。

(5) 市長所感

今日も本当に熱心にご議論いただきましてありがとうございました。なるほどなと思ったご意見が大半でしたが、具体的な対策をどうするのか難しい問題もありました。

P T A対象に啓発をするというご意見がありましたが、現在、年2回P T A役員に集まってもらい意見交換をしており、前々回は自転車マナーについてのお話をさせていただきました。自転車利用者が加害者となり数千万円の賠償金を課された判決があった事例をお話したところ、保護者の目の色が変わり、子どもにもマナーを徹底させたいと言ってもらいました。現実に誰にでも有り得る問題ということをご理解いただけたようです。

しかし、行政が啓発をする上で一番難しいのは、無関心層に关心を持つてもらうことです。P T Aの会合自体にも出席しない保護者には伝えることができません。また、安全5則は市報にも挟んで全世帯に配布しておりますが、ご理解いただいている市民も大勢います。

1班の発表で、事故現場の映像を見てもらうのが一番効果があるという意見がありました。誰でも事故に巻き込まれたり加害者になることが伝わる良い方法だと思いますので、ぜひ今後の参考にさせていただきたいと思います。お母さんが自転車の前後に子どもを乗せていることを取り締まるというご意見がありましたが、きちんと子どもを乗せる設備が整っている自転車は子どもを乗せて走行することが認められています。問題は、座席もないのに二人乗りをする行為です。

反射板の無料提供についてもご意見が出ていましたが、交通安全の啓発の時に反射板をよく配っておりますが、関心がある人にしか使用してもらえていない現状です。

サンビオ地区自治会では、自転車の無灯火取締りをしています。無視する人も多くいますが、立ち止まって点灯される方もいらっしゃいます。現在、毎月第2第4金曜日は市内一斉夜間パトロールを実施しており、街頭犯罪が減少しています。サンビオ地区の取組みが全地区に広がつていけば、自転車の無灯火運転は減るのではないかと考えています。

皆様から発表されたご意見はぜひ参考にしたいと思っています。また、他にもご意見があれば、お聞かせいただきたいと思います。

第53回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成25年3月22日(金)
- 2 時間 午後7:00～午後9:00
- 3 会場 ふれあい文化センター学習室3
- 4 出席者 かすが市民懇話会会員17名〔欠席(13名)〕
春日市長、総務部長、行政管理課課長補佐、事務局(企画担当)
文化振興課 又吉課長、能見課長補佐、小池統括係長
社会教育課図書館担当 市場統括係長、金堂図書館長

5 会の内容

- (1) 会長あいさつ
- (2) 市長あいさつ
- (3) ふれあい文化センター施設見学及び春日市の文化振興について

ふれあい文化センターの紹介 文化振興課 又吉課長
バックヤードツアーガイド 文化振興課総務担当 能見課長補佐
社会教育課図書館担当 市場統括係長

【見学コース順路】

2階学習室3(旧館)⇒1階サンホール(楽屋⇒ステージ⇒客席)⇒旧館から新館へ
⇒1階スプリングホール(客席⇒ステージ[舞台体験])⇒リハーサル室⇒⇒樂屋⇒
調光室(新館2階)⇒ミニホール(新館2階)⇒図書館へ
図書館入場⇒1階館内(情報カウンター・ボランティアルーム)⇒BM図書館車(地下)
⇒閉架図書室他(2階)⇒学習室3(旧館2階)

(4) グループ懇話

テーマ『ふれあい文化センターバックヤードツアーの感想』

- ① 1班(班員: 小山 雄二 [司会]、神代 俊史 [発表]、久富 典子 [記録]、緒方 寛
今村 太陽)

今日、初めてふれあい文化センターのバックヤードを見て「立派な施設だな。整っている施設だ」と感じました。維持管理費用は相当かかると思いますが、文化振興という意味では費用に捉われずに、より一層色々な事業をして欲しいと思います。

ふれあい文化センターの課題としては、「アクセスが悪い、市役所からだいぶ離れている、バスセンターに位置するもののコミュニティバスの本数が少ない」といったものが挙げられます。

そこで、施設利用者の拡大をするために、もっと市民を巻き込んだ市民が主体となったイベントを開催したり、サークル活動団体に対して施設利用を積極的にアピールする等の市民への告知方法を広く展開していただきたいと思います。

- ② 2班(班員: 松尾 謙治 [司会・記録] 池田 夕八、[発表]、吉田 紀美、諸岡 泰三
古賀ひとみ、今里 勇)

図書館について個別にお話を聞きました。図書館の蔵書が32万冊もあることに驚きました。

した。内訳は、一般向けが7割、児童向けが2割、雑誌が1割だそうです。書籍の盗難はゲートでチェックしており、西日本新聞は昭和42年から全て保管しているとのことです。本の入替はリクエストによって実施していく、人気の本は副本が複数冊あるようです。

班で出た意見としては、「ミニホールの出入口が1箇所しかないのは火災の時などに不安なので、工事費がかかるかもしれないが2箇所にして欲しい。文化祭の展示箇所が、同じジャンル（木彫）なのに、離れて配置されていたので調整して欲しい。150人定員の旧館2階の大会議室は、利用率が高いので、床を板張りにして欲しい。」などがありました。

素晴らしいホールを見せてもらってありがとうございました。

③ 3班（班員：東 強志〔司会〕、前田 浩右〔発表・記録〕、紙屋 彰枝、木村 豊坂本 雅美、廣畠 一代）

本日のふれあい文化センターバックヤードツアーについての感想と意見を出し合いましたので紹介します。

- ・バックヤードツアーによって知らなかつたことを知れたことが良かった。
- ・より広く子ども達に利用させるために、低学年と高学年に分けた合唱発表会を開催してはどうか。
- ・文化サークル参加者への啓発により春日市の文化レベルを向上させる
- ・青少年団体に市の施設を色々な方法で活用してもらう
- ・各設備の利用料金、青少年団体への減免措置
- ・施設のネット予約ができるようにしてほしい
- ・図書館の利用方法について、今一度、市報に掲載して欲しい
- ・市民の読書熱を高めるため、貸し出し累積を公表する（上位100名）
- ・図書館内で利用に関する希望等を聞いて欲しい。
- ・図書館でのアンケートでは、図書館を利用しない人達の声は拾えない。図書館に行ったことがない人達には図書館が見えてこない。
- ・図書館の返却口を開館時間中もあけてほしい。
- ・図書館利用者のマナーアップに力を入れて欲しい。

（5）市長所感

本当に今日は皆さん、お疲れさまでございました。初めてこのふれあい文化センターのバックヤードを見ていただいた方も結構多かったのではないかと思います。春日市は文化意識が高い市民の方が多く、多くの方々にご利用いただいております。私自身、今日、バックヤードツアーに参加させてもらい、裏方の仕事の大変さもわかりました。施設の利用も平日を含めて72%ということで、比較的高い利用率だと思いますが、もっともっと春日市の文化、文化的な教養を高めていただく意味からも文化活動や図書館の活用が広がっていけばいいなと思います。まだまだ市民に周知する余地があるのではないかというご指摘をいただきましたので、これも十分に検討させていただきたいと思います。併せて、今日は「はっけんさん」の布絵本を前に掲示していただいているが、春日市には、昔からの言い伝えといいますか、様々な伝承文化がございます。例えば春日市の特徴は、ため池が多いということです。これは、江戸末期に須玖の武末新兵衛さんが私財を投げうって作ったもので、ため池は地下でつながっていて水量

調整ができる仕組みになっており、江戸時代に農業土木技術が発達していたことがわかります。そういう信兵衛さんの物語もありますし、なんといいましても春日市は弥生時代、文化の中心地だった奴国の所在地でした。今後は、こういった地元の郷土の文化を子ども達に広げていこうということで、文化財をただ保存するだけではなく、今風にアレンジして子ども達に色々と体験してもらったり、目で見てわかるような、イラスト等を入れて冊子を作ってはどうかと考えております。春日市の文化財というものをこれからもっともっと大切にしていきたいと思います。現在、奴国の丘フェスタ等のイベントを通して市民の方々に奴国について知っていただいているのですが、子ども達にも春日市の歴史を感じてもらい、将来、春日市のことを持りに思ってもらえるような環境を作っていきたいと思います。ぜひ皆様からも色々なご意見を聞かせていただき、春日市が文化の香りが高いまちになればと思います。今日は、貴重なご意見をきかせていただき、ありがとうございました。お疲れさまでした。

第54回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成25年5月20日(月)
2 時間 午後7:00～午後9:00
3 会場 春日市役所 大会議室
4 出席者 かすが市民懇話会会員19名 [欠席(11名)]
春日市長、総務部長、行政管理課長、行政管理課課長補佐、事務局(企画担当)
ごみ減量推進課 横山課長、岩本主事

5 会の内容

- (1)会長あいさつ
- (2)市長あいさつ
- (3)市からの情報提供

「春日市の家庭ごみの現状について」ごみ減量推進課：岩本主事

皆さん、こんばんは。ごみ減量推進課の岩本と申します。春日市のごみの現状を中心に説明します。

まず、春日市のごみの量ですが、平成18年のごみの有料化に伴い、減少していたものが、平成23・24年と微増に転じています。平成24年度は平成23年度と比較して、210トンも増加しております。

また、ごみの処理費用ですが、ごみの収集費や処理費用全て合わせて、約13億4千万円(平成24年度)かかっております。これは、春日市的一般会計の約5%を占めており、一世帯あたりで計算すると年間約27,000円もかかっております。このようなごみの現状を踏まえ、春日市で主に取り組んでいることを3つに分けて紹介します。

まず、燃えるごみの約35%を占めている紙ごみを減らす取り組みの一環として古紙回収や雑がみ回収を推進しております。市では、古紙回収を推進するために古紙等集団回収団体に1kg当たり9円をお支払いしております。さらに、古紙等回収倉庫を設置する際の補助も実施しております。また、雑誌類やDMといったご家庭でよく出される雑がみの分別回収も実施しております。出されている紙ごみのうちの半分以上はリサイクル可能なごみですので、分別回収してリサイクルを推進することでごみの減量化に向けて取り組んでおります。

続いて、燃えるごみの約30%を占めている生ごみを減らす取り組みの一環として水切りの徹底と堆肥化を推進しております。生ごみの約7割が水分です。したがって、生ごみの水分だけで多額の処理費用がかかっており、家庭で出される生ごみの水切りの徹底をお願いしております。

また、市では、生ごみ堆肥化推進の取り組みとして、生ごみ処理機・ダンボールコンポスト用具購入費の補助を実施しております。ダンボールコンポスト用具購入費の補助制度は今年度から始まりましたので、是非ご活用くださいますようお願いします。

最後に市では、分別の徹底もお願いしております。春日市は、ごみ袋が指定されている4種類のほかに、粗大ごみ、有害ごみ、緑のリサイクルの7分別を実施しております。そのうち、不燃物の分別は春日大野城リサイクルプラザの作業員が手選別しております。したがって、分別がされていない不燃物があると、時間やコストの増加、作業員への危険性の心配も生じます。ごみを出される時は、その先に作業する方がいるということを認識して、正しくごみを出していただきますようにお願いいたします。

(4) グループ懇話

テーマ『ごみ減量大作戦！（家庭でできること）』

- ① 1班（班員：前田 浩右〔司会〕、東 強志〔発表〕、大久保 智〔記録〕、松尾 容子、
松尾 一昭、久富 典子）

ごみの減量化の方策としてもったいない運動（4R）を核に意識改革をすべきだと思います。この意識改革を促進するためには目標設定と削減した効果の公表をすべきではないかと思います。この目標設定というのは市としてのごみの減量達成に向けた数値目標だけでなく、各家庭でのごみの減量化に向けた具体的な目標を設定していただきたいと思います。そして、その削減数値を公表していただき、達成できた団体や家庭にはごみ袋を配布するといった取組みをすれば、ごみ減量化に向けた家庭への意識づけに繋がるのではないかと考えます。目標がなければ市民には身近なものとならないので、具体的な目標を設定していただきたいと思います。さらに、市が取り組んでいる3つの施策を3ヵ年計画で実施し、1年ずつ重点的に取り組めば、より市の方向性が明確化されるのではないかと考えます。またそのほかに、ガレージセールの啓蒙活動や、行政・学校が率先してごみの分別を行ってほしいという意見も出ました。

- ② 2班（班員：福元 千鶴〔司会〕、廣畑 一代〔発表兼記録〕、今村 太陽、緒方 寛、小山雄二、野村 喜秋）

ごみ減量化の取り組みをするには市民の教育と動機づけが大事ではないかと考えました。市民の教育に関しては、子どもを巻き込んで実施するのがいいのではないかという意見が出ました。例えば、学校の参観日に環境問題を取り上げた授業をしていただき、親子共に学べる機会を作る、ごみ減量に挑戦するファミリーを募集してコンテスト（表彰）を実施する等の取組みも面白いのではないかと考えました。動機づけについては、古紙回収だけでなく、雑がみを回収したら報奨金をもらえるような制度や、ごみ袋の値上げもごみ減量に対する動機づけになるのではないかと思います。さらに、ごみ処理施設の見学を子どもだけではなく、大人に対しても実施することも必要ではないかという意見も出ました。

また、ダンボールコンポストの堆肥の安全性について、国や県と連携してモニター調査をしてほしいと思います。

- ③ 3班（班員：坂本 雅美〔司会〕、篠原 喜美恵〔発表〕、木村 豊〔記録〕、池田 夕八、古賀 ひとみ、紙屋 彰枝、吉田 紀美）

市で行っている施策をもう少しPRしてはどうかと思います。雑がみがリサイクルできることについて市報などで周知されているにも関わらず、市民に情報が行き届いていないという現状は問題であると思いますので、市の情報をPRする仕方を工夫していただければと思います。

また、自治会によっては、活発に古紙回収等をしているところもあるので、自治会対抗別のコンクールをしてはどうかと思いました。さらに、白色トレー・色のついたトレーも分別してリサイクルしていただければという意見も出ました。

また、このような環境問題になっている現状は、大人の責任ではないかと考えています。このような生活を選んできた大人たちの責任であると思うので、次世代の子どもたちだけではなく、私たち自身（大人）も一緒になって考える機会を持たなければいけないのだと思いま

す。こどもたちと一緒に日々の生活から（マイはし、マイ容器をもって地域のお祭りに参加する等）、環境に対する意識を持って行動していかなければいけないと思います。

(5) 市長所感

本当にあつという間の時間でしたが、皆さんのが意識の高い方ばかりであるということを痛感しました。私達の中にはやはり大量消費・大量生産という意識があるのではないかという気がしています。日常生活では便利になりすぎて、損か得かということが前面に出てきているのが現状です。したがって今一度、意識改革をするということは本当に大事なことであると思います。また、意見で出ましたとおり、何か削減目標を掲げて取り組んでいくことは意識づけという観点では大切でないかと考えます。さらに、行政や学校に率先してごみ減量に向けて取り組んで欲しいという意見もありましたが、これから、もっと内部で徹底していかなければいけないとあらためて感じました。

ごみの収集で難しいのが、共同住宅の多い地区や賃貸住宅の多い地区へのごみ分別の徹底です。共同住宅等に住んでいる世帯は自治会や隣組に入っていない場合が多く回覧板が回ってこないので、市報しか媒体がなく分別が徹底されていないのが現状です。さらに、ごみ問題や地域に対しての無関心層が増加しており、ここにどうやって働きかけていくのかが大変難しい状況です。無関心層に今後どうやって意識づけしていくかは大変大きな課題であると考えます。

最後に、環境問題は大人の責任であるというお話をありがとうございましたが、冒頭でも述べましたとおり、消費は美德という時代があり、今では考えられない価値観があったのも事実ではないかと思います。これからはそのこともしっかりと踏まえて、市民の皆様方と一緒に考えていただきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。本日は、本当に貴重なご意見を聞かせていただき、どうもありがとうございました。

(6)感謝状贈呈と記念撮影

～懇話会の模様～



かすが市民懇話会の様子(写真)

各回の模様

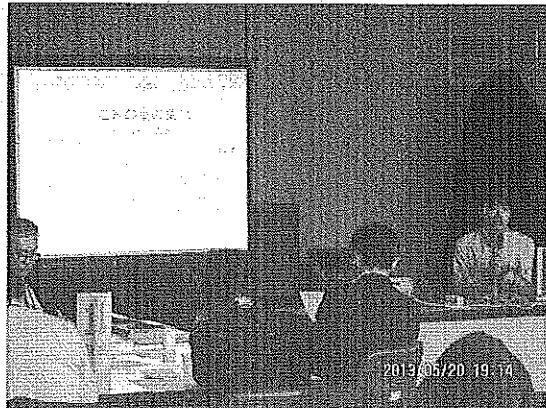


各回とも複数の班に分かれ、活発な議論が行いました。

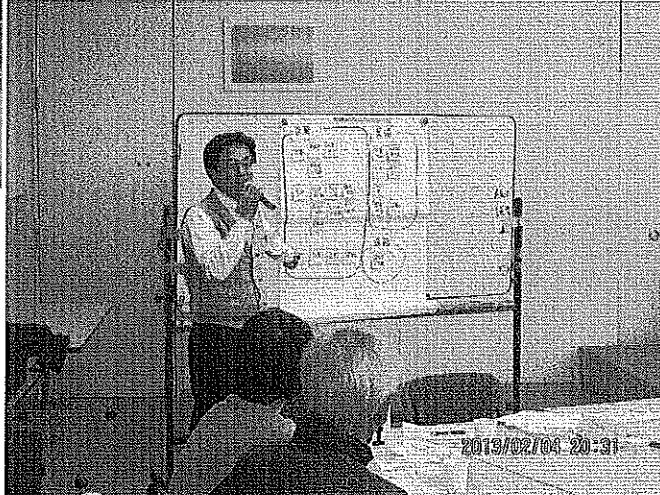
毎回、井上市長が懇話に加わり、直接意見を交わしました。



各回とも、市役所や関係団体の方から、講師を招き、テーマに関する講義や懇話に加わっていました。



懇話で出た意見は、市長を含めた市職員の前で、市民目線での提言として発表しました。



かすが市民懇話会
第8期会員からの
メッセージ
(50音順)

今村 太陽

2年間を振り返って

私はかすが市民懇話会に参加させて頂きました。改めて春日市の良いところを沢山学びました。特に大変お忙しい中、井上市長が毎度会に出席して頂き、市民の声ひとつひとつに耳を傾けて頂いている姿勢、必要なものはすぐに取り入れようとする井上市長の市民目線を大切にする姿勢には本当に感激しました。

私は現在、九州で一番住みやすい街とも言われている春日市を更に良くしていくためには、春日市民ひとりひとりの春日市に対する想いが大切だと思います。

かすが市民懇話会はメンバー全員が自分たちの経験や考えを自由に発言し、住みやすいからこそ抱えている問題点を行政と市民とで共有し、同じ目的である『さらに住みやすいまち 春日市』を目指している会だと思います。

私は2年間経験させていただき、かすが市民懇話会とは自分たちのまちは自分たちで良くしていくと前向きに考えている方々が集まっている会だと思いました。

緒方 寛

2年間を振り返って

私が「かすが市民懇話会」に参加したきっかけは、第7期会長であった伊藤信輔様からお誘いがあったからです。

市民として、是非こういう会に参加して市政に関心を持ち、春日市について考えて欲しいと、それは熱心に説明されました。その熱意に打たれ、参加させていただいた次第です。

この2年間を振り返りますと、毎回、今の春日市が抱えるホットな課題・テーマについて、市の担当部局からの講話や、普段見ることが出来ない施設のバックヤードの見学等を行った後、グループで懇話し、メンバーからの色々な意見・アイデアを拝聴する事が出来ました。私にとって、非常に勉強になり、大変貴重な体験でした。

また、毎回出席の春日市長をはじめ市職員の方々には、懇話内容を熱心に聞いていただき、最後に、市長から班の発表に対する的確・詳細なコメントをいただきました。

多くの方々にお会いでき、様々な考え方に対する接することができ、本当に有意義な2年間でした。有難うございました。

1つ要望をさせていただけるならば、発表した提案に対して、後日、その1部についてでもいいので、現在このような検討をしているというような、行政からの返答をいただけたと、この懇話会は、もっと有意義なものになっていくと思います。

最後になりましたが、行政管理課の皆様には大変お世話になったことを感謝申しあげますとともに、市民懇話会のますますの発展を祈念して、「2年間を振り返って」の感想とさせていただきます。

神代 俊史

2年間を振り返って

8期会員としてこの2年間、地域行政のあり方について考える機会をいただき、また皆様の意見を聞くことで様々な取組みや考え方を知ることができ、心から感謝しています。

そもそも自治会の組長の役をやることになってから、続いてこの懇話会への参加と、それまでは地域行政に対しまり関心は持っていないかったというのが正直なところです。

それ故に思うところとして“地域行政は市民の関心と参加が大きな力となる”のではないかと感じるようになりました。

ただ、その根本として、“いかに行政の運営が柔軟であるか”もまた地域行政を改革し、推し進める大きな力となっていることも感じました。この春日市は本当に住みやすい街を感じています。それは、市民の参加によるまちづくりが積極的に行われているからだと思いますが、それを裏で支援する行政の体制と職員の皆様の取組みがあつてのことと実感しています。

この懇話会は市民が行政に対して意見を言える貴重な場であり、今後も継続されるべきものと思っております。何よりも、より多くの幅広い年齢層の一般市民の皆さまがもっと積極的に参加していただくことが肝要と感じています。春日市にはそれをきちんと受け止め、精査した上で積極的に行政に取り入れていく体制があると思います。今後の懇話会に期待しています。

私自信もこの経験を生かしてさまざまな活動の中で積極的に地域に貢献していくと思っております。2年間本当にありがとうございました。

小山 雄二

2年間を振り返って

機会を得て、「かすが市民懇話会」に参加する事が出来ました。それによって、これまで自己中心に捉えておりました「地区や市内」での様々な問題を全市的・多角的に見つめ直し、委員の皆様と話し合うことができました。個人的には自転車マナーの見直し(自己反省も含めて)、さらに周囲の皆様への啓発の重要性等を再認識いたしました。

懇話会に参加して、知らされることの多いのに自分自身驚いています。懇話会が1~2ヶ月に2時間程度の開催であり私自身もですが、委員の皆様も十分に「各自の考え方」を言い尽くせない面もあったと思います。しかし、各委員が日常生活に戻った時、各組織や隣人、組、自治会での触れ合いの中で「春日市の問題点」を思い出し懇話会での「討議の視線」で生活環境やその他の諸問題改善に努力を繋げてゆける事と思っています。

「住みやすく・安全・安心の春日市」は「行政にお願いにする」ばかりでは当然に成り立ちません。市民と行政の連携が大事であります。今後も、懇話会が充実していくことを望んでいます。

最後になりましたが、夜遅くまで熱心に公務に務めていただきました「井上市長様」はじめ、行政管理課の担当者各位様・ご意見を拝聴させていただきました市職員様には厚く御礼申し上げます。

篠原 貴美恵

2年間を振り返って

市民懇話会に参加させていただき、春日市の魅力をさらに知る2年間となりありがとうございました。

また、お忙しい中、市民の声を吸い上げ市政に反映していくこうと市長さんをはじめ職員の皆様の熱心な取り組みに、信頼と親しみを感じることができました。

さらに、懇話会に参加されている皆様からは、春日市を大切に思う気持ちと様々な

立場のご意見を伺い、話し合う機会に参加できました。私にとって大変有意義な時間を過ごすことができ、まわりの事に关心を持ち生活する大切さを感じる機会となりました。

私自身、環境審議会や子どもエコクラブに関わらせていただいているが、春日市のことを考え、住みやすいまちを目指すという同じ目標を持って進められているところです。懇話会や審議会等々の議論が同じ思いを持ってなされていますが、各々単体で終わっていることは残念です。

ごみ減量大作戦（平成24年度第6回）などは、市民、行政、地域が一つになり、市の環境基本計画にのっとった活動の展開が期待できる議論であったと思います。各々の大切な議論が生かされるよう、連絡会などを設け、さらに有意義な懇話会に発展していくことを願っています。

東 強志

2年間を振り返って

「春日市の地域のことを知りたい。地域の方々とネットワークを作らせていただきたい。」その様な想いで、市民懇話会に参加させていただき、毎回楽しみに出席させていただきました。

市内の各界、各層の方々とお会いし、情報を頂き、懇話させていただいたことは貴重な2年間となりました。

懇話会で知り得たことは市民の皆様の中には市の行政、ボランティア活動に熱心な方と、そうでない方と2極分化していることを知りました。

成熟化（価値観の多様化）社会の難しい一面だと思います。しかし、行政（施策）がヒューマンネットワーク（市民懇話会・市長の出前トーク・他会合）を通じ、深化をする工夫と、スピード感を高めて反復して実施することにより、全体のボトムアップにが図れることも確信しました。

また、「行政の基本は市民との対話を」をモットーとされる井上市長の旗振りのもと、職員の方々が一生懸命に取り組んでおられる姿に感銘を受けました。市民と行政がベクトルを合わせ、人の絆を深める。「住みよさ発見、市民都市かすが」が成就されることを祈念申し上げます。

前園 敦子

2年間を振り返って

会員として参加させてもらいながら、色々の活動と重なり欠席が多く大変申し訳なくそして皆様と一緒に春日市に対しての熱い想いの中での話し合いに参加出来なかつたのが残念です。2期4年間関わらせていただきましたことで、私自身が春日市に対して意識が高まり、仕事柄（子どもの本の専門店）特に子ども達に対しての支援の感情が一段と生じております。

市長は自ら市民の声を聞き、春日市民の幸せを願い市政を司られている様子が市民懇話会の委員になった事で、今まで以上に感じ、わかりました。

行政と市民との連携が委員の役割でもあったと思っております。委員の経験を生かし、今後とも声を上げながら春日市の中で活動していきます。

行政管理課の職員の皆様に感謝しております。この様な機会をいただいたことにありがとうございます。

吉田 紀美

2年間を振り返って

2年間、計12回。市民懇話会に出席して感じたことは、身近な問題にも関わらず、私を含め知らないことが多く、市の職員さんから説明を受けることが大変多く勉強になりました。市報や自治会の回覧板に目を通したり、出前トークに出席してはいましたが、見落とし聞き漏らしが多かったのかなと思いました。いかに市長さんや職員の皆さんが市民のために頑張っておられるのかが分かりました。

また、奴国の丘歴史資料館やふれあい文化センター・市民図書館の職員さん方の仕事に対する熱意に感銘も受けました。

市民懇話会に出席して分かったこと、発見したことたくさんあります。それらを一人でも多くの人に伝えるのが私たちの役目ではないかと思います。本当に有難うございました。

かすが市民懇話会会員名簿
(平成24年度)

かすが市民懇話会 第8期会員名簿

(任期:平成23年7月1日~平成25年6月30日)

番号	名前	備考
1	今村 太陽	市民公募会員 平成23年度副会長 平成24年度副会長
2	緒方 寛	市民公募会員
3	神代 俊史	市民公募会員
4	小山 雄二	市民公募会員
5	篠原 貴美恵	市民公募会員
6	西村 瑞枝	市民公募会員 第6期会員
7	東 強志	市民公募会員
8	前園 敦子	市民公募会員 第6期会員
9	松原 至	市民公募会員
10	吉田 紀美	市民公募会員 平成23年度副会長 平成24年度副会長

かすが市民懇話会 第9期会員名簿

(任期:平成24年7月1日~平成26年6月30日)

番号	名前	備考
11	紙屋 彰枝	市民公募会員
12	木村 豊	市民公募会員
13	中村 真一郎	市民公募会員
14	久富 典子	市民公募会員、第7期会員 平成22年度・平成23年度 副会長 平成24年度会長
15	廣畠 一代	市民公募会員
16	福元 千鶴	市民公募会員
17	前田 浩右	市民公募会員 平成24年度 副会長
18	松尾 一昭	市民公募会員 第7期会員
19	松尾 謙治	市民公募会員
20	吉岡 公子	市民公募会員

かすが市民懇話会 第9期会員名簿

(任期:平成24年7月1日～平成26年6月30日)

番号	名前	備考
21	坂本 雅美	団体推薦会員 春日市子ども会育成会連絡協議会
22	古賀 ひとみ	団体推薦会員 春日市社会福祉協議会
23	北村 哲	団体推薦会員 春日市身体障害者福祉協会
24	神代 憲暁	団体推薦会員 春日市商工会
25	野村 喜秋	団体推薦会員 春日市小中学校PTA連絡協議会 ※任期(平成24年7月1日～平成25年6月30日)
26	松尾 容子	団体推薦会員 春日市体育協会
27	今里 勇	団体推薦会員 春日市文化協会
28	諸岡 泰三	団体推薦会員 春日市老人クラブ連合会
29	大久保 聰	団体推薦会員 春日まちづくり支援センター ぶどうの庭
30	池田 邦八	団体推薦会員 筑紫農業共同組合